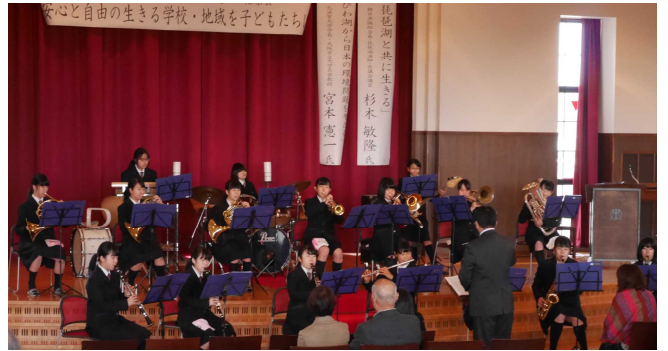


<地域民主教育全国交流研究会・近江八幡集会(2015年11月21～23日)>

ヴォーリズ学園(旧「近江兄弟社学園」)を会場に開催された初日の全体集会は、土曜日授業を終えて昼食もとらずに駆けつけてくれた同校吹奏楽部の演奏でオープンしました。アトラクション的演奏もあり素敵でした。宮本憲一滋賀大学名誉教授の公害問題の講演も圧巻でした。四日市ぜんそく、水俣病、富山イタイイタイ病訴訟をとおして世界で先進的な公害対策を実現してきた日本が、今や大幅な後退をしていること、環境教育の重要性を詳しい資料に基づいて語られました。



何と言っても今年の目玉は「(仮)先生の放課後ライブ」でした。近江八幡ではベテラン教師が自宅を開放して若手教師が集う場所をつくり、いろいろな悩みを出し合ったり、学習をしたりしています。「金三の会」(第三金曜日)や「金一の会」、「教師の放課後」などの会があり、その中の一つがいつもの会の様子を全体会でライブでしてくれました。学級通信を手にして子どもの様子を話し合ったりしま



したが、子どもの「指導」をめぐるフロアの若い教師から子どもの行動(授業中に本を読んでいる事を「許すかどうか」、許しているとベテラン教師から「そんな風だから学級がうまくいかないのだ。」と指摘される。)をどこまで許すのか、という問題が出され、一時間半のライブはあっという間に終

わりました。この問題は私が参加した「教師・学校分科会」にも引き継がれ、若い教師達が「指導」で悩む姿が率直に多く出される「呼び水」になりました。

PTA行事の関係で閉会の挨拶に立った同学園高校の校長先生は、私学教育の公教育としての性格や私学助成の意義について熱く語り、おかげで私が持参した愛知県への署名もほとんどの参加者がしてくれました。(感謝!)

<全国の先生達が語った「えっ!」という学校の姿>

・「給食を小2の子ども達が運んできたが、**麦ご飯と味噌汁**だけ。運び忘れだと思っておかずを調理場に取りに行ったが、その日はご飯と味噌汁だけのメニューだった。給食費滞納がとても多い学校だからか？」(小学校教師の妻は「そんなことはありません。」と言っていました…。)

・「**学級通信を発行するためには5つの印鑑**をもらわなければならない。原版が戻ってきたのは1週間後だった。保護者に了解をとって内密で発行していたら100号で見つかってしまい校長に呼び出された。校長と直談判して校長か副校長のどちらかの印鑑だけで発行できるようになった。」(多くの学校で管理職の印鑑が必要とのことでした。検閲しないばかりか、感動して線まで引いている愛知黎明高校の校長とはえらい違いですね。)

・「学校を移動したら何か職員室の居心地が悪い。分科会の討論を聞いていて、それは職員室での会話が少ないことだと気づいた。**みんなパソコンに向かっていて会話が**ない。」

・「うちの職員室は**笑い声禁止**です。電話での対応中や生徒の指導中に笑い声が聞こえるのはまずいというのが理由です。」(それは常識で判断することで禁止にまでしなくても…)

私と交流研

学生時代から多くの全国研究会に参加してきましたが、交流研に魅力を感じる点は三つあります。

一つは、子ども・学習・学校・地域を「串刺し」にしてとらえようという発想です。分科会に分かれて討論しますが、たえずこの四点をつながげながら問題を深めていこうとする研究会の姿勢に魅力を感じるのです。マカレンコは「子どもは部分、部分で育てられるのではない。」と言いましたが、子どもを軸にしながら学習や学校、地域のあり方を同時に問う視点を持たないと子どもは見えてこないものだと思っています。

二つ目は、研究会の実践・理論水準の高さと自由な討議が保障されていることです。全国研究会にはややもすると権威主義や家父長的威光がはびこるものですが、交流研にはそれが無いということです。権威主義や家父長的威光に嫌気がさしていた私には居心地のよい研究会です。

三つ目は、初日の夜に行われる「地酒持ち寄り大交流会」です。地域を大切にする交流研は参加者が自分の地域の地酒を持って来て、杯を重ねながら語り合います。この会をきっかけに地酒に目が向いた私は、自宅から五分の所に蔵元があることを知り、いかに私が自分の地域を知らないかを思い知らされました。



来年は12月23～25日 沖縄にて開催

地域民教交流研はこれまで11月後半の三連休で開催されることが多く、オータムフェス真最中のため参加が難しい方もいたでしょう。しかし、来年はクリスマスの三連休です。一緒に参加しませんか？今から予定表に書き込んでおいてください。この集會に沖縄から参加した3人のメンバーは、辺野古で機動隊にごぼう抜きされながら連日座り込みをしている様子を生々しく訴えました。

<来年2月13～14日、名古屋で「第16回開かれた学校づくり全国交流集會」開催 愛知黎明高校には両日とも発表要請が>

昨年5月に日本教育学会中部地区研究集會で本校の「学校づくりフォーラム」の報告をしました。それがこの研究会実行委員会の坪井由実教授(愛知県立大学)の目にとまり、表記のような要請となりました。名古屋中央高校を会場に開催されますが、東海地区からは名古屋市立山田高校「山田高校のより良い学校づくりをめざす生徒・保護者・教職員による意見交流会」や公立高校定通部父母の会の取り組み、「小牧市立中学校における学校づくり」などの報告が予定されています。2月14日は「授業改革フェス」と日程が重なっていますが、愛知黎明の取り組みを全国に発信すると同時に他地域・他校の取り組みに学ぶ場とするため生徒や先生方の発表や参加をぜひお願いします。

この関係で12月12日に開催される「第2回黎明フォーラム」には坪井教授が参観にみえる予定です。(他の実行委員にも参加を呼びかけておられます。)